



新しい年が始まりました。冬休みで静まり返っていた園舎も、子ども達の元気な声で目を覚ましたことでしょう。今年は午（うま）年。馬は止まるよりも前へ進むことで力を発揮する動物と言われています。私たちも子ども達と共に、一歩ずつ前に歩いていきたいと思います。一人一人の歩みが実りあるものになりますように…。

さて、お正月はいかがお過ごしでしたか？コロナをきっかけに最近では『分散参拝』も定着し、“幸先詣（さいさきもうで）”として年末から、前倒して縁起物などを授与し、立春まで参拝期間を設けている神社仏閣も増えているようです。その影響か、元旦の初詣は人手が少し落ち着いていたように感じます。コロナ禍を経て全てが元通りになるのではなく、『個』の時代に合わせた新しい文化へと変わりゆくものもあるのだと実感しています。昭和を長く生きた身としては寂しさもありますが、次世代が生きやすい時代を築くことに抗うつもりはありません。大切なものを時代に合った形で残し、継承していく。その役割がまだ私たちには残されています。目まぐるしく変化する時代だからこそ、本質を見極める力を養いたいものです。

ところで皆さんは初夢を見ましたか？元旦の夜から二日の朝にかけて見る夢で、その年の縁起を占うものとして古より親しまれてきました。残念なことに私は二日の朝に悪夢を見てしまい、なんとも嫌な目覚めとなりました。夢は眠っている間に脳が一日の出来事や感情を整理していつ過程で見るものだと言われています。ですから良くも悪くも、強く印象に残ったことが夢に影響するものです。来年は良い夢が見られるよう、瞑想でもして寝ようかな。

初夢と言えば【一富士二鷹三茄子】という言葉がありますが、実際にその縁起物の夢を見る人はほとんどいないそうです。富士山（日本一高い）・鷹（強くて賢い）・茄子（成す=成功する）という意味からそれらの夢を見

ると一年が上手くいくだろうという願いが込められていたのです。では、この続きがあるのをご存知ですか？【四扇五煙草六座頭】と続きます。四扇（開くと運が広がる=運が開ける）・五煙草（昔の煙草は高級品で煙が立つ=運気が上がる）・六座頭（座頭とは琵琶法師や按摩をしていた人でお金を持っている人が多かった=財に恵まれる象徴だった）という意味があります。いつしか四以降が伝えられなくなったのは、時代と共に価値観が変わってしまったのかもしれませんが、いつの世も時代は変わり続けているということですね。



10月号でもふれあい体験の話を書きましたが、あたごは幼稚園でもう10年以上前から中学校との交流で職場体験や、社会人講話、家庭科の「ふれあい体験」などを行ってきました。コロナ禍に一時中断していた取り組みも復活してきています。9月に実施した中学2年生の触れ合い体験の話聞いた中学3年生が“自分たちも子ども達と関わりたい”という声を上げ、ゲームなどの楽しいコーナーを自主的に企画・準備して、12月に中学校に年中・年長児を招いて一緒に遊んでくれました。子どもたちの目線に合わせ自然と小さくしゃがんで関わってくれていた中学生の姿に、明るい未来が感じられ大変嬉しく思いました。少子化の進行や地域社会での人との結びつきが弱まり、若者が普段の生活で乳児と触れ合う機会が減少していることを懸念して、福岡県は登録した中学・高校と保育所や幼稚園とをマッチングさせる『コドモミライコネクト』というシステムの運用を令和7年度に開始しました。直接乳幼児と触れ合うことで、将来子どもを産み育てることや家族を持つことをイメージできる機会を作ろうというのが目的です。子育てや家族を持つイメージの欠落は乳幼児の虐待に繋がります。こういう取り組みが、これからの未来に痛ましい事件を少しでも減らす一助となることを切に願っています。 園長：讚井 理香